

資料2 第4学年 指示語指導の具体的な手だて

オ 一番少ないものは、遠称の指示語
 エ 次は、不定称の指示語「ど」のつ
 エ 次は、不定称の指示語「ど」のつ
 ウ 次は、近称一指示語「こ」のつく
 ウ 次は、近称一指示語「こ」のつく
 イ 中称指示語の「そ」のつくことは
 イ 中称指示語の「そ」のつくことは
 が、九百五十七で一番多い。

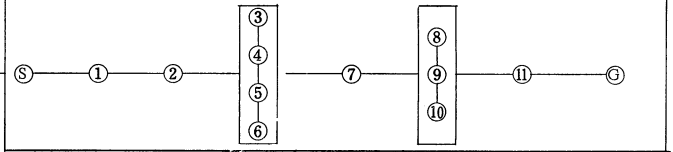
(4) 到達基準の明確化と具体的な手だ
 て
 学習指導要領に示されている言語事
 項のねらいや内容、学年の発達段階や
 指導事項などを熟慮した上で基本的な
 考え方をとおさす指示語指導の学年系統
 と到達基準、具体的内容手だてを作成

目 標 文と文との間の関係に適した指示語を適切に使うことができる

到達基準 近称、中称、遠称、不定称の使い方や働き方を理解し使用することができる

- ① 指示語はものや事柄を指し示す役目をもっている
- ② 文・文章の中で指示語を適切に使うことができる
- ③ 「これ」「こっち」「ここ」「こんな」「この」などの「こ」のつく指示語は指し示す物が話し手に近いところにあることがわかり使うことができる
- ④ 「それ」「そこ」「そんな」「その」などの「そ」のつく指示語は指し示す物が話し相手(聞き手)のそばにあることがわかり使うことができる
- ⑤ 「あれ」「あそこ」「あの」などの「あ」のつく指示語は指し示す物が話し手からも話し相手からも遠くはなれていることがわかり使うことができる
- ⑥ 「どれ」「どちら」「どこ」「どんな」「どの」などの「ど」のつく指示語は指し示す物がよくわからないものや決っていないものであることがわかり使うことができる
- ⑦ 「これ」「それ」「あれ」「どれ」「この」「あの」「どの」などはものやことがらを指し示す言葉であることがわかり使うことができる
- ⑧ 「こっち」「どちら」は方向を指し示す言葉であることがわかり使うことができる
- ⑨ 「ここ」「そこ」「あそこ」「どこ」は場所を指し示す言葉であることがわかり使うことができる
- ⑩ 「こんな」「そんな」「あんな」「どんな」は様子や方法などを指し示す言葉であることがわかり使うことができる
- ⑪ 指示語を適切に使って正しく文章をつづることができる

コースアウトライン



題材指導の目標 指示語の働きや使い方がわかり効果を考え文章の中で正しく使うことができる

目標の分析 (下位目標)

1. 「その」のように物の名前や事柄を言わないで代わりに指し示す言葉が指示語である
2. 文章の中に使われている指示語を指摘することができる
3. 指示語のはたらきを考えながら適切に使うことができる。
4. 「こ」のつく指示語は話し手に近いものをさす場合に使われる
5. 「そ」のつく指示語は話し相手(聞き手)のそばのものをさす場合に使われる
6. 「あ」のつく指示語は話し手からも話し相手からも遠くはなれているものをさす場合に使われる
7. 「ど」のつく指示語はよくわからないものや決っていないものをさす場合に使われる
8. どのことばも「こ・そ・あ・ど」で始まっているので指示語をこそあどことばともいう
9. ものやことがらを指し示す指示語には「これ」「それ」「あれ」「どれ」「この」「その」「あれ」「どの」などがあることを理解する
10. 方角や方向を指し示す指示語には「こっち」「どっち」などがあることを理解する
11. 場所を指し示す指示語には「ここ」「そこ」「どこ」などがあることを理解する
12. 様子や方法などを指し示す指示語には「こんな」「あんな」「どんな」などがあることを理解する
13. 指示語を意味の上から4つのグループにわけることができる
14. 指示語は言葉をさすがた言葉だけでなく言葉の集まり・文・段落なども指す場合がある
15. 指示語の働きや使い方を練習作文を通して理解し文章の中に適切に使うことができる

(5) 検証授業に当たっての基本的な考
 え方
 指示語の働きや使い方は、△気付
 く▽△類型化▽△整理▽△定着
 ・発展▽の段階を踏んで指導する。実
 施学年は、二年、四年、六年とする。
 (6) 検証授業計画(ここでは、四年の

ものだけをあげる。)
 ア 題材名 指示語のはたらき
 イ 題材の目標、指示語の働きや使
 用がわかり、効果を考え文章の中
 で正しく使うことができる。
 ウ 指導計画：略
 エ 本時の目標、指示語の働きや使
 用を練習作文を通して理解し、その

一単元の指導計画

